



## 夢は完成させるものではなく 追い求めるもの だからいつも2番でいたい



HITO

あたらし

### 新 次郎さん (狭山市民美術協会会長)

「いつも自分に苦境をつき込んで生きています。よく、はつちつとした笑顔で話す新次郎さんは今年70歳。さまざまな経歴の中には、狭山市民美術協会指導免許をお持ちです。50歳を越えてから一輪車の免許をとるのは非常に難しいと言われる中で20年程前に取得。70歳以上で免許を持っているかたは現在日本に2人位だそう。児童館の一輪車クラブの指導員なども務め、「70歳の今でも一輪車に乗れることが、私の自慢なんです。」と笑います。

そんな新さんが美術に携わるようになったのは、横田基地内に勤務していたころから。日本の伝統工芸で消えていこうとしている「びいどろ」の作風にヒントを得て、「箔画」とい

箔画を手にとり。新さんが創立した狭山市民美術協会も、今年で20周年を迎えました。狭山市民美術協会では、毎年市民の皆さんが自由に参加できる展覧会を開催していますが、今年は創立20周年を記念し、不用品を使った作品を展示するリサイクル展を11月に開催します。現在作品を募集中ですので、空き缶・空きびん・ペットボトルなどを利用したあっと驚くような作品をお寄せください。(詳しくは8頁をご覧ください。)

「新しい手法の絵画を生み出しました。この箔画とは、文字とおり金箔・銀箔を使う絵画の手法で、霧の中で薬品の掛け方によって変化した12色の箔を使いガラス板にエナメルで描いた下地にその色を張っていくというものです。華やかで立体感もある独特の技法で、以前はデパートでも販売していた、遠方からも注文が来るほど人気がありました。しかし、絵を売るよりもボランティアで指導している。そんな地域のためになるだろう。その方が私の性に合うのでは。」と考える画展をきっかけに市民美術協会を設立しました。今は狭山市民コミュニティ推進協議会や国際交流協会など、「自分の英語力を活かすことや、地域とのふれあいを大切にさまざまな活動を続けていこうと思います。」ボランティアやコミュニティに携わっているとな、自分が健康でいられるんです。」と言い、人を楽しませることが自分の人生のすべてだと語る新さん。いつも心に留めておきたい。「人に使われる人になりたい。あてにされる人になりたい。」の言葉が、そのお人柄をそのまま表しているように印象に残り、温かな気持ちにさせてくれました。



狭山市民美術協会の皆さんと。う新しい手法の絵画を生み出しました。この箔画とは、文字とおり金箔・銀箔を使う絵画の手法で、霧の中で薬品の掛け方によって変化した12色の箔を使い

#### 植物・生き物 / しょくぶつ・いきもの



撮影... 県生態系保護協会狭山支部  
矢内昭夫さん(水野)

全長約19cm。オスが子育てをすることで知られているこの鳥は、メスのほうが色彩が濃くて鮮やかです。夏羽のメスはえりからくびにかけて赤褐色で、趾に足ひれがあることからこの名で呼ばれます。繁殖地は北極地方の海岸や島で、南太平洋や南アメリカ西海岸などで越冬、日本には初夏に旅鳥として渡来します。主に海洋上で生息しますが、海岸近くの湿地および内陸の湖沼などでも見られます。水面をぐるぐると泳ぎ回り、浮かび上がってくるプランクトンなどの小動物を食べています。市内では人間川に沿った水田や河川敷にある小さな水たまりで観察されています。

### さやまの生態系 アカエリヒレアシシギ (チドリ目チドリ科)

Vol 50